

「ヒューマン・コミュニケーション学」講義録 (6)

—ヒューマン・コミュニケーション学の勉強法—

徳 座 晃 子

本学にコミュニケーション学部が創設されて10年の経験を積んだ2003年1月現在、この学部には「メディア社会」、「ネットワークコミュニケーション」、「人間・文化」三専攻分野と、「ワークショップ教育」が設けられた。このような大きな母体の中で、「ことば」をどのように教えているのであろうか？ 私の場合、文化人類学の approach も役立った。例えば、1970年代、私と同じ頃アメリカ西部の大学に留学しておいでだった西江雅之先生の「伝え合いの人類学」の連続講義を、新宿の朝日カルチャー・センターで拝聴したことがある。当時としては日本で最新の専門分野を、どのような日本語で社会人におはなしになるのか？ ミシガン大学での私の先生、John E. Baird, Jr. 先生と同じく、「伝え合い」の7要素（ベアード先生は8要素）として、1920年頃から提言されていた説を、先生は「伝え合いの人類学」の標題で紹介なさった。曰く（そのまま）、

〈伝え合いの人類学〉 西江雅之

人は“言葉”で伝え合っている。

人は“言葉”で（も）伝え合っている。

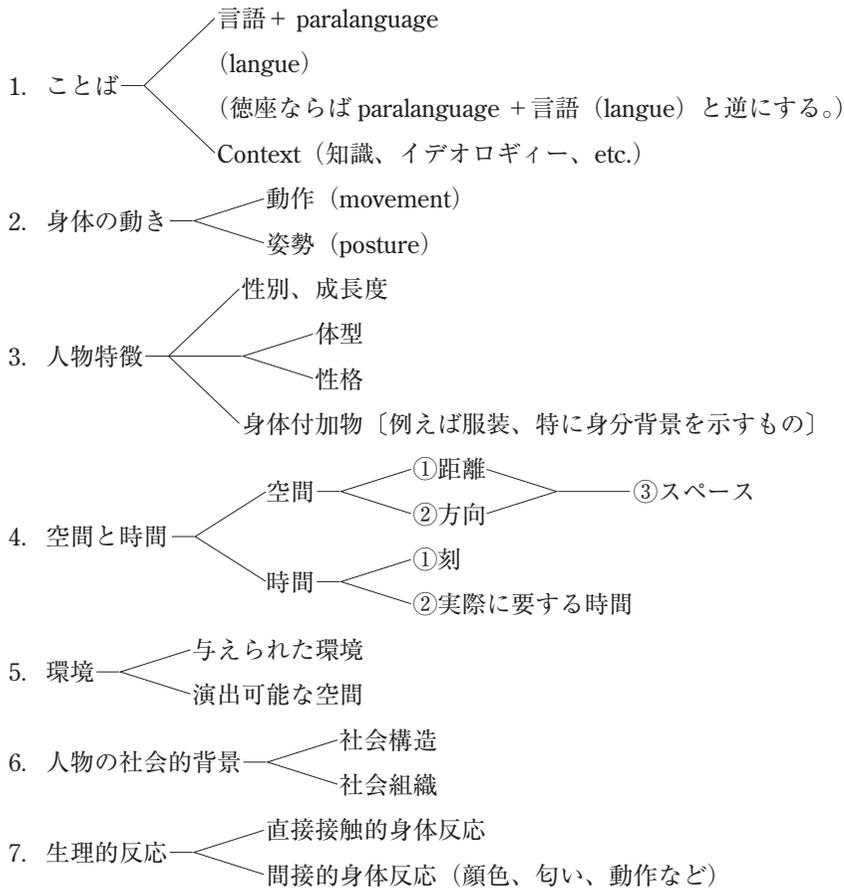
人は“言葉”以外のものでも伝え合いをしている。

“身振り”

人は“言葉”と“身振り”で伝え合いをしている。

人は“言葉”でも“身振り”でも伝え合いができる。

“伝え合い”の七要素



なお、Baird 先生の 8 要素は、*The Dynamics of Organizational Communication*. (New York: Harper & Row), 1977, pp. 43-53。

このような基礎勉強を基に、30 数年の教職体験を経てやっと解ってきた自分にとってのコミュニケーション学の枠組みを、私は次のようにまとめることができた。それは 2001 年 11 月の頃である。田崎篤郎、板垣雄三先生ご在職中であつた。

ヒューマン・コミュニケーションの指導と研究は西洋文化において長い伝統をもつ。特にオーラル・コミュニケーションとしての教育と研究は、現在も中心的な役割りを果している。1915 年、米国で主としてオーラル・コミュニケーションに関心を持つ教師や研究者たちの

中で、既製の分野内で意見を異にする人々が、全国規模の学会（全米スピーチ学会）を結成。公式演説など多くの新しい分野が創設され、調査方法や理論の開発方法を追及した。1930年代までには、社会学における行動主義の強い影響下で、コミュニケーションを科学的に研究しようとした多くの研究者たちは、行動主義モデルを自分たちの成果に適用しはじめた。さらに、第二次世界大戦後、態度変容研究（attitude change studies）において、社会心理学者やコミュニケーション学者による急速な進歩があり、調査に関して影響力を持つ学派が出現した。

態度変容の研究は、影響力を持つにいたったが、より大きな研究活動分野の一部にすぎなかった。小集団、集団、組織体内／外／間／のコミュニケーション・プロセスを研究している他の研究者グループも、様々な変数分析法を考案している。1960年代後半頃から、米国を主として、日本を含む国々でも、リレーショナル・コミュニケーション（人間関係コミュニケーション、relational communication）の研究と教育の諸分野で成果があげられはじめている。さらに、第三のメッセージ／メディア・コミュニケーションの分野でも、従来のジャーナリズム、マス・メディア研究分野との融合がみられる。

上記の歴史的背景を持つ研究と教育の成果の一端を学び、人間理解の理論と技術を習得させる講座を設置することは必要である。研究分野を以下にあげる。

- I. 1. コミュニケーション（伝え合い）の定義（複数）
2. コミュニケーション構成要素
 - a. 自己、他者、認知、等
 - b. 言葉／言語の特性、等
 - c. 非言語
 - d. 話し方
 - e. 聴き方
 - f. その他
3. コミュニケーションの役割、例えばマズローの法則が指摘しているように、自分を含めた人間の持つ生理的欲求、安全性の欲求、社会的（孤立せずどこかに所属したい）欲求、尊敬されたい（いちもくおかれたい）欲求、自己実現の欲求、を操作して、現状よりもよりよい、又はその逆の、人間関係を創ること。
- II. 4. 公式なオーラル・コミュニケーション
 - a. 縦の関係
 - パブリック・スピーキング、説得（persuasion）
 - 目的、種類、主題、文章構成法、発表方法、効果の測定、聴衆分析、批評方法

「ヒューマン・コミュニケーション学」講義録 (6)

- b. 横の関係
 - (a) 対話
 - (b) 談話
 - (c) 議論 (ディベート)
 - (d) 討論法 (ディスカッション)
 - (e) 各種集会の進め方、等
- III. 5. 国内異文化コミュニケーション
- 6. 国際異文化コミュニケーション
上記5、6の定義、特徴の説明
- IV. 7. 人間関係のコミュニケーション
 - a. 自己 (自分/個体) 内
 - b. 家族内
 - c. 対人 (個体間)
 - d. 小集団 (小グループ 3~6人くらい)
 - e. 集団 (グループ 30人~特定多数)
 - f. 組織内/間 (オーガニゼーション 30人~特定多数)
- V. 8. メッセージ/メディア・コミュニケーション いわゆるマス・コミュニケーション
マス・メディア (活字分野—新聞・雑誌 その他の印刷物、ラジオ・テレビなど)
- 9. 政治コミュニケーション
- 10. 社会改良運動のコミュニケーション
- VI. I. T.、その他、現在まで発達している電子伝達分野
上記それぞれの定義と内容説明
- VII. コミュニケーション教育

これらの分野の教材をあつめて、私自身は本校で学部、大学院の授業を進めてみた。

例

1. 西洋古典修辞学の伝統をたどる。
2. アメリカを中心とした20世紀コミュニケーション諸理論を概観する (心理学、社会学、文化人類学、経営学等の分野)。哲学、宗教学、歴史学、文学などを含めるとよい。
3. アメリカにおける20世紀マス・コミュニケーション諸理論の概観。
4. 中近東諸国、インド、中国、韓国、日本での展開、実施されてきている音声・書き言葉による「伝え合い」の実情と諸理論の探査。

まとめのレポートを提出。そして上記番号に対応する以下の使用教材を配布した。

1. *The Rhetorical Tradition: Readings from Classical Times to the Present.* edited by

- Patricia Bizzell and Bruce Herzberg (1990).
2. A. *Communication Theory* by Ernest G. Bormann (2000).
 - B. *Understanding Human Communication* by Ronald B. Adler and George Rodman (1991).
 - C. *Oral Communication : Speaking across Cultures* by Larry A. Samovar (2000).
 - D. *Relational Communication: Continuity and Change in Personal Relationships* by Julia T. Wood (2000).
 - E. Theories on Group and Organizational Communication.
 - F. *Foundations of Intercultural Communication* by Guo-Ming Chen and William J. Starosta (1998).
3. *Mass Communication Theory: Foundations, Present and Future* by Stanley J. Baran and Dennis K. Davis (2000).
 4. 中近東諸国、インド、中国、韓国、日本における「はなしことば」・「書きことば」による「伝え合い」についての伝統に関する研究書は各履修生が探査研究する。

このようにして、昭和39年(1964)から、日本における私の公的教職生活をすすめてきた。これらの基礎研究ステップを一段ずつ、包括的に記憶しながらのぼりつづけ、さいごに政治コミュニケーションのところまでたどりついた。ここで子供時代から関心をもたされていた一人の日本婦人の社会的自己の目覚め (self-awareness) が、二人から三人→数人→何十人→何百人となって (consciousness raising)、「家」から→自己教育→政治→経済→社会的諸問題へと開眼していく姿を、博士論文にまとめ、母校慶應義塾大学出版会から1999年春に出版した。(The Rise of the Feminist Movement in Japan. 300 p.)

この間、学習院大学英米文学研究科で、言語学の演習を一年間担当させていただき栄を得た。直接の専門分野ではないのに、恩師たち厨川文夫、西脇順三郎、岩崎良三、そしてその弟子たちの筆頭鈴木幸夫先生方のおかげで、おたのみを受けたのだと思う。早速、スタンフォード大学とミシガン大学で日本文学を主専攻、言語学を副専攻となさったアメリカの40数年来の私の恩師 Dr. George T. Shea に“S.O.S.”の電話をかけた。その結果、“Readings in Linguistic Analysis Compiled by Bernard Bloch”リストと、シェー先生のおとりになったA4版タイプ用紙60頁の手書きノート、この授業でお使いになった教科書一式が即座に送られてきた。恩人シェー先生のノート的一端だけを、週一回九ヶ月の演習に活用させていただくことができた。さらに幸いなことに、小池育夫先生の「明海大学大学院応用言語学会誌」(No. 5, 2004. pp. 4-29) に上記の諸事情と「資料」を載せさせていただいた。

Dr. Shea が Angell Hall でこの授業を履修なさったのは1949年から52年の間で、その頃、服部四郎先生(1908-1996)がアルタイ諸言語を special course として教えていらしたときく。

先生のご帰国後は、日本での弟子で若手の中国文学研究者山本謙吾氏が、その course をひきつがれたらしい。山本氏は息子さんを残して早世されたことを、山本氏の友人飯島周先生から 1970 年跡見学園女子大学でお聞きし、シェー先生にお伝えした。ついでながら、シェー氏と山本氏は仲のよい友人だったらしい。ある夜、二人はシェー氏の運転で、アン・アーバーからデトロイトにドライブし、サミュエル・ベケットの『ゴドーを待ちながら』を観たそうである。服部先生が日本へ去られたあとも、二人は仲のよい友人だったらしい。昭和 40 年 (1965)、シェー先生が法政大学出版局から博士論文 *Lefwing Literature in Japan : A Brief History of the Proletarian Literary Movement* (478 p.) を出版された折に、「群像」に山本謙吾氏の『紅樓夢』研究にふれていらしたと記憶している。

Dr. Shea は 1953 年に東京大学と、法政大学の小田切秀雄先生のもとへ数ヶ月、アメリカからはじめてのフルブライト大学院生として留学なされた。その結果が上記の本である。50 年前ミネソタ大学日本語学科で教鞭をとっておいでの頃、先生の office に私の父から毎週送られてくる「朝日新聞」をさしあげに立ち寄ったのが、この“Reading”リストをいただいたきっかけである。わずか一学期間で完読すべき参考書のこのリストをご覧になり、アメリカの一流大学の一つ一つの course discipline がどれほどきびしいものであるかおわかりになろう。終戦直後から、多くの日本の英語学者や教師たちが、ミシガン大学言語学科を訪れた。なお、服部四郎先生は私が 1988 年にミシガン大学から博士号をいただいたことをお知らせすると、お祝いのおことばを郵送して下さった。先生の知人も「坂西志保 (ミシガン大学、美学で Ph. D.) に次ぐ快挙です」と言って下さった。本校では、増田四郎先生が、第一研究センターの教員室で私の努力を認めて下さった。

(2003 年 10 月記)

2004 年 3 月、学生諸君と直接に接する機会が少なくなったので、IT 分野での基礎研究方法をご紹介することができない。期を一にして、「ことば」、「言語」についての言及が氾濫している。「コミュニケーション」という語も日常用語となっている。学生時代に勉強の対象の一つとして、ご自分なりに体系的に一考しておいてほしい。「コミュニケーション科学」第一号、pp. 12-13、東京経済大学、1994 年 5 月号を私は折にふれて再読している。

(2007 年 6 月記)

READINGS IN LINGUISTIC ANALYSIS

(Compiled by Bernard Bloch)

The following list is intended to illustrate the development of linguistic analysis in the United States. For this reason, only American works are included, although it is of course recognized that many European works, both British and Continental, have exercised a profound influence on the course of American linguistics. With one exception (No. D1.1), the list includes nothing published before 1920.

Even within its limited scope, this bibliography does not claim to be either selective or complete. On the one hand, not all the works here listed are significant; on the other, some significant works may have been omitted through inadvertence.

Items in the bibliography are listed in approximately chronological order within the following divisions:

- | | |
|---------------------------|-------------------------------|
| Theoretical Discussions: | E. Phonemic Sketches |
| A. Orientation | E1. English |
| B. Phonology | E2. Other European Languages |
| C. Morphology | E3. African Languages |
| Practical Applications: | E4. Far Eastern Languages |
| D. Complete Grammars | E5. American Indian Languages |
| D1. Full-Scale Treatments | E6. Dead Languages |
| D2. Outline Sketches | F. Morphological Sketches |
| D3. Pedagogical Works | G. Syntactic Sketches |

Abbreviations

- | | |
|--------|---|
| IJAL | International Journal of American Linguistics |
| JAOS | Journal of the American Oriental Society |
| LCP | Language, Culture, and Personality: Essays in
Memory of Edward Sapir |
| Lg | Language: Journal of the Linguistic Society of
America |
| SIL | Studies in Linguistics |
| SP LSA | Special Publication of the Linguistic Society
of America |

Style of Page References

- 15:3 Volume 15, Number 3
15.46-8 Volume 15, Pages 46 to 48 inclusive
15:3.46-8 Volume 15, Number 3, Pages 46 to 48
III.15.46-8 Series III, Volume 15, Pages 46 to 48

THEORETICAL DISCUSSIONS

A. Orientation

- A.1 Edward Sapir, *Language: An introduction to the study of speech*; New York, 1921. [Reviewed by L. Bloomfield, *The Classical Weekly* 15.142-3 (1922).]
 Chapter 1. Introductory: Language defined 1--23
 Chapter 10. Language, race, and culture 221-235
 Chapter 11. Language and literature 236-247
- A.2 Leonard Bloomfield, *A set of postulates for the science of language*, Lg 2.153-64 (1926).
- A.3 Leonard Bloomfield, *On recent work in general linguistics*, *Modern Philology* 25.211-30 (1927).
- A.4 Edward Sapir, *The status of linguistics as a science*, Lg 5.207-14 (1929).
- A.5 Leonard Bloomfield, review of Ries' *Was ist ein Satz?*, Lg 7.204-9 (1931).
- A.6 Leonard Bloomfield, *Language*; New York, 1933. [Reviewed by R.G. Kent and G.M. Bolling, Lg 10.40-52 (1934).]
 Chapter 1. The study of language 3--20
 Chapter 2. The use of language 21--41
 Chapter 3. Speech-communities 42--56
 Chapter 9. Meaning 139-157
 Chapter 28. Applications and outlook 496-509
- A.7 Leonard Bloomfield, review of Havers' *Handbuch der erklärenden Syntax*, Lg 10.32-40 (1934).
- A.8 Leonard Bloomfield, *Linguistic aspects of science* (*International Encyclopedia of Unified Science* 1:4); Chicago, 1939.
 Chapter 1. Introduction 1--14
 Chapter 2. The function of language 15--20
 Chapter 3. The structure of language 21--33
 Chapter 4. Precision in natural language 33--42
 Chapter 5. Scientific language 42--54
 Chapter 6. Summary 54--56
 Selected bibliography 57--58
- A.9 Zellig S. Harris, review of Gray's *Foundations of language*, Lg 16.216-31 (1940).
- A.10 Benjamin Lee Whorf, *Science and linguistics*, *The Technology Review* 42:6.229-31, 247-8 (1940).
- A.11 Benjamin Lee Whorf, *Linguistics as an exact science*, *The Technology Review* 43:2.3-8 (1940).
- A.12 Benjamin Lee Whorf, *Languages and logic*, *The Technology Review* 43:6. 250-2 + three additional pages (1941).
- A.13 Benjamin Lee Whorf, *The relation of habitual behavior and thought to language*, LCP 75-93 (Menasha, Wis., 1941).
 [Nos. A.10-13 are reprinted in a pamphlet (*Four articles on metalinguistics*) issued as a training document by the Foreign Service Institute of the Department of State; Washington, D. C., 1949.]

- A.14 Stanley S. Newman, Behavior patterns in linguistic structure: A case study, LCP 94-106 (Menasha, Wis., 1941).
- A.15 Leonard Bloomfield, Outline guide for the practical study of foreign languages (SP LSA), 16 pp.; Baltimore, 1942.
- A.16 Bernard Bloch and George L. Trager, Outline of linguistic analysis (SP LSA); Baltimore, 1942, reprinted 1947. [Reviewed by E.H. Sturtevant, Lg 19.42-4 (1943); M.B. Emeneau, JAOS 63.208-9 (1943).]
 Chapter 1. Language and linguistics 5---9
 Reading list 80--82
- A.17 Leonard Bloomfield, Philosophical aspects of language, Studies in the history of culture 173-7 (Menasha, Wis., 1942).
- A.18 Leonard Bloomfield, Meaning, Monatshefte für deutschen Unterricht 35.101-6 (1943).
- A.19 Leonard Bloomfield, Secondary and tertiary responses to language, Lg 20.45-55 (1944).
- A.20 Benjamin Lee Whorf, Grammatical categories, Lg 21.1-11 (1945).
- A.21 C. F. Voegelin and Z. S. Harris, Linguistics in ethnology, Southwestern Journal of Anthropology 1.455-65 (1945).
- A.22 Edward Sapir and Morris Swadesh, American Indian grammatical categories, Word 2.103-12 (1946).
- A.23 C. F. Voegelin and Z. S. Harris, The scope of linguistics, American Anthropologist 49.588-600 (1947).
- A.24 Edward Sapir, The relation of American Indian linguistics to general linguistics, Southwestern Journal of Anthropology 3.1-4 (1947).
- A.25 Eugene A. Nida, Field techniques in descriptive linguistics, IJAL 13. 138-46 (1947).
- A.26 Charles F. Hockett, Biophysics linguistics and the unity of science, American Scientist 36.558-72 (1948).
- A.27 Charles F. Hockett, A note on 'structure', IJAL 14.269-71 (1948).
- A.28 Burt W. Aginsky and Ethel G. Aginsky, The importance of language universals, Word 4.168-72 (1948).
- A.29 George L. Trager, The field of linguistics (SIL: Occasional papers, No. 1), 8 pp.; Norman, Oklahoma, 1949.

B. Phonology

- ° B.1 Edward Sapir, Sound patterns in language, Lg 1.37-51 (1925).
- B.2 Edward Sapir, La réalité psychologique des phonèmes, Psychologie du langage 247-65 (Bibliothèque de Philosophie Contemporain; Paris, 1933).
- B.3 Yuen Ren Chao, The non-uniqueness of phonemic solutions of phonetic systems, Academia Sinica: Bulletin of the Institute of History and Philology 4.363-97 (1933).
- ° B.4 Leonard Bloomfield, Language; New York, 1933. [See A.6.]
- | | |
|---|---------|
| Chapter 5. The phoneme | 74--92 |
| Chapter 6. Types of phonemes ,,,,,,,..... | 93-108 |
| Chapter 7. Modifications | 109-126 |
| Chapter 8. Phonetic structure | 127-138 |
- B.5 Morris Swadesh, The phonemic principle, Lg 10.117-29 (1934).
- B.6 W. Freeman Twaddell, On defining the phoneme (Language Monograph No. 16); Supplement to Lg 11:1 (1935).
- | | |
|--|-------|
| Chap.1. Introduction | 5--7 |
| Chap.2. The phoneme as a mental or psychological reality | 8-16 |
| Chap.3. The phoneme as a physical reality | 17-32 |
| Chap.4. The phoneme as a fiction | 33-36 |
| Chap.5. Definition of the phoneme as an abstractional, fictitious unit | 37-51 |
| Chap.6. Comparisons with earlier definitions of the phoneme .. | 52-55 |
| Chap.7. Articulatory rather than acoustic characterization of the phoneme | 56-57 |
| Chap.8. Some possible applications of an abstractional, fictitious phoneme | 58-62 |
- B.7 Morris Swadesh, Twaddell on defining the phoneme [B.6], Lg 11.244-50 (1935).
- B.8 W. Freeman Twaddell, On various phonemes [reply to B.7], Lg 12.53-9 (1936).
- B.9 Manuel J. Andrade, Some questions of fact and policy concerning phonemes [criticism of B.6], Lg 12.1-14 (1936).
- B.10 W. Freeman Twaddell, Answers to Andrade's questions [B.9], Lg 12.294-7 (1936).
- B.11 Morris Swadesh, The phonemic interpretation of long consonants, Lg 13. 1-10 (1937).
- B.12 Morris Swadesh, A method for phonetic accuracy and speed, American Anthropologist 39.728-32 (1937).
- B.13 Bernard Bloch, Phonemic overlapping, American Speech 16.278-84 (1941).
- B.14 George L. Trager, The theory of accentual systems, LCP 131-45 (Menasha, Wis., 1941).
- ° B.15 George L. Trager, The phonemic treatment of semivowels, Lg 18.220-3 (1942).
- B.16 Charles F. Hockett, A system of descriptive phonology, Lg 18.3-21 (1942).
- B.17 W. Freeman Twaddell, Phonemics, Monatshefte für deutschen Unterricht 34.262-8 (1942).

- ° B.18 Bernard Bloch and George L. Trager, Outline of linguistic analysis (SP
LSA); Baltimore, 1942, reprinted 1947. [See A.16.]
- | | |
|----------------------------|--------|
| Chapter 2. Phonetics | 10--37 |
| Chapter 3. Phonemics | 38--52 |
- B.19 Zellig S. Harris, Simultaneous components in phonology, Lg 20.181-205
(1944).
- B.20 R. H. Stetson, Bases of phonology; Oberlin, Ohio, 1945. [Reviewed by W. F.
Twaddell, IJAL 12.102-8 (1946); E. A. Nida, Word 3.132-6 (1947).]
- | | |
|---|---------|
| Chapter 1. Introduction | 5--8 |
| Chapter 2. Two trends | 9--18 |
| Chapter 3. Discussion of logistic phonemics | 19--36 |
| Chapter 4. Analogues of articulate language | 37--43 |
| Chapter 5. Medium for phonological observation and experiment | 44--47 |
| Chapter 6. Physiological apparatus of language | 48--59 |
| Chapter 7. Historical treatment of the syllable | 60--74 |
| Chapter 8. System of the phonemes derives from the mechanism. | 75--85 |
| Chapter 9. Nonsense syllables | 86--93 |
| Chapter 10. Phonology and morphology | 94--96 |
| Chapter 11. Historical sound changes | 97--99 |
| Chapter 12. Conclusion | 100-101 |
| Chapter 13. Summary | 102-104 |
| Bibliogr. and Appendix | 105-112 |
- B.21 William E. Welmers, Hints from morphology for phonemic analysis, SIL
5.91-100 (1947).
- B.22 Kenneth L. Pike, Phonemics: A technique for reducing languages to writing
(University of Michigan Publications: Linguistics, Vol. 3); Ann Arbor,
1947. [Reviewed by C. F. Voegelin, IJAL 15.75-85 (1949).]
- | | |
|---|---------|
| Chapter 1. Phonetic symbolism | 3--11 |
| Chapter 2. Phonetic exercises for producing sound types | 12--43 |
| Chapter 3. Selections for reading | 44--56 |
| Chapter 4. The premises of practical phonemics | 57--66 |
| Chapter 5. Preliminary procedures | 67--72 |
| Chaps. 6-12. [Analytical procedures] | 73-158 |
| Chapter 13. Analytical procedures further amplified etc. | 159-173 |
| Chapter 14. Types of descriptive statements | 174-190 |
| Chapter 15. Sample descriptive statements | 191-206 |
| Chapter 16. The formation of practical alphabets | 208-226 |
| Appendix | 228-254 |
- B.23 Kenneth L. Pike, Grammatical prerequisites to phonemic analysis, Word
3.155-72 (1947).
- B.24 Kenneth L. Pike, Problems in the teaching of practical phonemics, Language
Learning 1:2.3-8 (1948).
- B.25 Kenneth L. Pike, Tone languages: A technique for determining the number
and type of pitch contrasts in a language, with studies in tonemic
substitution and fusion (University of Michigan Publications: Linguist-
ics, Vol. 4); Ann Arbor, 1948.
- [For chapter titles and pagination see next sheet.]

- (B.25) Chapter 1. Types of tone languages 3--17
 Chapter 2. Tone characteristics contributing to the difficulties of tonemic analysis 18--39
 Chapter 3. Preliminary steps in tonal analysis 43--47
 Chapter 4. Classification of words into groups etc. 48--54
 Chapter 5. Analysis of the contrastive pitches of groups of words uniform in pitch 55--67
 Chapter 6. Procedure for the analysis of tonemic substitution. 71--76
 Chapter 7. Tonemic perturbations in Mixteco etc. 77--94
 Chapter 8. Tonemic perturbations in Mazateco etc. 95-165
 Bibliography and index 167-187
- ° B.26 Bernard Bloch, A set of postulates for phonemic analysis, Lg 24.3-46 (1948).
- B.27 Martin Joos, Acoustic phonetics (Language Monograph No. 23); Supplement to Lg 24:2 (1948).
 Chapter 3. Indeterminacy and perception 66--87
 Chapter 5. Segmentation and decomposition 98-126
- B.28 Dean Pittman, Practical linguistics; Cleveland, Ohio, 1948.
 Chapter 2. Phonetics 8--56
 Chapter 3. Phonemics 57--85
- B.29 Charles C. Fries and Kenneth L. Pike, Coexistent phonemic systems, Lg 25.29-50 (1949).
- B.30 Einar Haugen, Phoneme or prosodeme?, Lg 25:3 (1949).

C. Morphology

- C.1 Edward Sapir, Language: An introduction to the study of speech; New York, 1921. [See A.1.]
 Chapter 4. Form in language: Grammatical processes 59--85
 Chapter 5. Form in language: Grammatical concepts 86-126
 Chapter 6. Types of linguistic structure 127-156
- C.2 Leonard Bloomfield, Language; New York, 1933. [See A.6, B.4.]
 Chapter 10. Grammatical forms 158-169
 Chapter 11. Sentence types 170-183
 Chapter 12. Syntax 184-206
 Chapter 13. Morphology 207-226
 Chapter 14. Morphologic types 227-246
 Chapter 15. Substitution 247-263
 Chapter 16. Form-classes and lexicon 264-280
- C.3 Bernard Bloch and George L. Trager, Outline of linguistic analysis (SP ISA); Baltimore, 1942. [See A.16, B.18.]
 Chapter 4. Morphology 53--70
 Chapter 5. Syntax 71--79
- ° C.4 Zellig S. Harris, Morpheme alternants in linguistic analysis, Lg 18. 169-80 (1942).
- C.5 Kenneth L. Pike, Taxemes and immediate constituents, Lg 19.65-82 (1943).

- C.6 Zellig S. Harris, Discontinuous morphemes, Lg 21.121-7 (1945).
- C.7 Zellig S. Harris, From morpheme to utterance, Lg 22.161-73 (1946).
- C.8 Eugene A. Nida, Syntax: A descriptive analysis; Glendale, Calif., 1946.
- | | |
|--|--------|
| Chapter 1. Introduction | 1--6 |
| Chapter 2. Descriptive features | 7--43 |
| Chapter 3. The determination of immediate constituents | 44--61 |
| Chapter 4. The organization of syntactic data | 62-114 |
- C.9 Eugene A. Nida, Morphology: The descriptive analysis of words (University of Michigan Publications: Linguistics, Vol. 2); Ann Arbor, 1946. [Reviewed by C.F. Hockett, Lg 23.273-85 (1947).]
- | | |
|--|---------|
| Chapter 1. Morphological processes | 1--21 |
| Chapter 2. Phonological processes | 22--78 |
| Chapter 3. Constituents of words | 79--87 |
| Chapter 4. Features of description | 88-101 |
| Chapter 5. Form-classes | 102-137 |
| Chapter 6. Substitutes | 138-148 |
| Chapter 7. Criteria for determining words | 149-156 |
| Chapter 8. Collection of data | 157-165 |
| Chapter 9. Semantic value of morphological items | 166-184 |
| Chapter 10. Morphological section of the grammar | 185-200 |
| Appendix | 201-221 |
- C.10 Rulon S. Wells, Immediate constituents, Lg 23.81-117 (1947).
- C.11 Charles F. Hockett, Problems of morphemic analysis, Lg 23.321-43 (1947).
- C.12 C. F. Voegelin, Distinctive features and meaning equivalence, Lg 24. 132-5 (1948).
- C.13 Eugene A. Nida, The analysis of grammatical constituents, Lg 24.168-77 (1948).
- C.14 Richard S. Pittman, Nuclear structures in linguistics, Lg 24.287-92 (1948).
- C.15 Dwight L. Bolinger, On defining the morpheme, Word 4.18-23 (1948).
- C.16 Eugene A. Nida, The identification of morphemes, Lg. 24.414-41 (1948).
- C.17 Dean Pittman, Practical linguistics; Cleveland, Ohio, 1948. [See B.28.]
- | | |
|---------------------------------------|---------|
| Chapter 4. Grammar | 86-111 |
| Chapter 5. Semantics | 112-118 |
| Chapter 6. Grammatical analysis | 119-129 |
| Chapter 10. Sample grammar | 185-195 |
- C.18 Rulon S. Wells, Automatic alternation, Lg 25.99-116 (1949).

PRACTICAL APPLICATIONS

D. Complete GrammarsD1. Full-Scale Treatments

- D1.1 Franz Boas (ed.), Handbook of American Indian languages, Part 1 (Smithsonian Institution: Bureau of American Ethnology, Bulletin 40); Washington, D. C., 1911.
- | | |
|---|----------|
| Franz Boas: Introduction | 1--83 |
| Pliny Earle Goddard: Athapaskan (Hupa) | 85-158 |
| John R. Swanton: Tlingit | 159-204 |
| John R. Swanton: Haida | 205-282 |
| Franz Boas: Tsimshian | 283-422 |
| Franz Boas: Kwakiutl | 423-557 |
| Franz Boas: Chinook | 559-677 |
| Roland B. Dixon: Maidu | 679-734 |
| William Jones, revised by Michelson: Algonquian (Fox) | 735-873 |
| Franz Boas and John R. Swanton: Siouan (Dakota) | 875-965 |
| William Thalbitzer: Eskimo | 967-1069 |
- D1.2 Franz Boas (ed.), Handbook of American Indian languages, Part 2 (Smithsonian Institution: Bureau of American Ethnology, Bulletin 40); Washington, D. C., 1922.
- | | |
|---|---------|
| Edward Sapir: The Takelma language of southwestern Oregon ... | 1-296 |
| Leo J. Frachtenberg: Coos | 297-429 |
| Leo J. Frachtenberg: Siuslawan (Lower Umpqua) | 431-629 |
| Waldemar Bogoras: Chukchee | 631-903 |
- D1.3 Fang-Kuei Li, Mattole: An Athabaskan language (The University of Chicago Publications in Anthropology, Linguistic Series); Chicago, 1930.
- | | |
|---|---------|
| Chapter 1. Mattole phonology | 5--51 |
| Chapter 2. Important morphological elements | 52--70 |
| Chapter 3. Lexical elements | 71-138 |
| Text and translation | 139-152 |
- D1.4 Franz Boas (ed.), Handbook of American Indian languages, Part 4; New York, 1933-38. [Reviewed by C. F. Hockett, Lg 16.54-7 (1940).]
- | | |
|---|---------|
| Harry Hoijer: Tonkawa | 1-148 |
| Manuel J. Andrade: Quileute | 151-292 |
| Günter Wagner: Yuchi | 295-384 |
| Ruth L. Bunzel: Zuni | 389-515 |
| Gladys A. Reichard: Coeur d'Alene | 519-707 |
- D1.5 Ethel G. Aginsky, A grammar of the Mende language [of Sierra Leone, West Africa] (Language Diss. No. 20); Supplement to Lg 11:3 (1935).
- D1.6 Mark Hanna Watkins, A grammar of Chichewa [a Bantu language of Central Africa] (Language Diss. No. 24); Supplement to Lg 13:2 (1937).
- D1.7 Charles Carpenter Fries, American English grammar: The grammatical structure of present-day American English with especial reference to social differences or class dialects, 313 pp.; New York and London, 1940. [Reviewed by M. Joos, Lg 17.274-5 (1941).]

- Dl.8 Mary R. Haas, *Tunica* [an American Indian language of Louisiana] (Extract from Handbook of American Indian languages, Part 4); New York, 1941. [Reviewed by G.L.Trager, Lg 17.353-7 (1941).]
- Dl.9 Robert A. Hall Jr., *Melanesian Pidgin English: Grammar, texts, vocabulary* (SP LSA); Baltimore, 1943.
- Dl.10 Robert A. Hall Jr., *Hungarian grammar* (Language Monograph No. 21); Supplement to Lg 20:4 (1944).
- Dl.11 Stanley S. Newman, *Yokuts language of California* (Viking Fund Publications in Anthropology, No. 2); New York, 1944. [Reviewed by Z.S. Harris, IJAL 10.196-211 (1944); M.Joos, SIL 2.69-71 (1944).]
- Dl.12 William S. Cornyn, *Outline of Burmese grammar* (Language Diss. No. 38); Supplement to Lg 20:4 (1944).
- Dl.13 William Everett Welmers, *A descriptive grammar of Fanti* [principal language of the Gold Coast Colony, British West Africa] (Language Diss. No. 39); Supplement to Lg 22:3 (1946).
- Dl.14 Carleton Taylor Hodge, *An outline of Hausa grammar* [a language of Nigeria, British West Africa] (Language Diss. No. 41); Supplement to Lg 23:4 (1947).
- Dl.15 Robert A. Hall Jr., *The linguistic structure of Taki-Taki* [a creolized language of Dutch Guiana], Lg 24.92-116 (1948).
- Dl.16 Robert A. Hall Jr., *French* (Structural Sketch No. 1, Language Monograph No. 24); Supplement to Lg 24:3 (1948).
- Dl.17 Robert A. Hall Jr., *Descriptive Italian grammar* (SP LSA; Cornell Romance Studies, Vol. 2); Ithaca, New York, 1948.

D2. Outline Sketches

- D2.1 Leonard Bloomfield, *Notes on the Fox language*, IJAL 3.219-32 (1924); 4.181-219 (1927).
- D2.2 Zellig S. Harris, *Linguistic structure of Hebrew*, JAOS 61.143-67 (1941).
- D2.3 C.F.Voegelin and M.E.Ellinghausen, *Turkish structure*, JAOS 63.34-65 (1943).
- D2.4 M.B.Emeneau, *Kota texts 1.15-35* (University of California Publications in Linguistics 2:1); Berkeley and Los Angeles, 1944.
- D2.5 Harry Hoijer (ed.), *Linguistic structures of native America* (Viking Fund Publications in Anthropology, No. 6); New York, 1946. [Reviewed by W.D.Preston, IJAL 13.59-66 (1947); C.D.Chrétien, Acta Americana 5.112-7 (1947); H.V.Velten, Word 3.149-53 (1947); C.F.Hockett, Lg 24.183-8 (1948).]
- | | |
|--|---------|
| Harry Hoijer: Introduction | 9--29 |
| Morris Swadesh: South Greenlandic (Eskimo) | 30--54 |
| Harry Hoijer: Chiricahua Apache | 55--84 |
| Leonard Bloomfield: Algonquian [historical sketch] | 85-129 |
| C.F.Voegelin: Delaware, an Eastern Algonquian language | 130-157 |
| Benjamin Lee Whorf: The Hopi language, Toreva dialect | 158-183 |
| George L. Trager: An outline of Taos grammar | 184-221 |
| Stanley S. Newman: The Yawelmani dialect of Yokuts | 222-248 |
| A.M.Halpern: Yuma | 249-288 |

- (D2.5) Harry Hoijer: Tonkawa 289-311
 Morris Swadesh: Chitimacha 312-336
 Mary R. Haas: A grammatical sketch of Tunica 337-366
 Benjamin Lee Whorf: The Milpa Alta dialect of Aztec 367-397
 Li Fang-Kuei: Chipewyan 398-423
- D2.6 Zellig S. Harris, Structural restatements: I. Swadesh's Eskimo, Newman's Yawelmani [in D2.5], IJAL 13.47-58 (1947).
- D2.7 Zellig S. Harris, Structural restatements: II. Voegelin's Delaware [in D2.5], IJAL 13.175-86 (1947).
- D2.8 William Whitman, Descriptive grammar of Ioway-Oto, IJAL 13.233-48 (1947).
- D2.9 Charles F. Hockett, Potawatomi, IJAL 14.1-10, 63-73, 139-49, 213-25 (1948).

D3. Pedagogical Works

Excellent descriptive treatments of several languages, arranged in graded lessons for the use of beginners, will be found in the series of Education Manuals prepared for the United States Armed Forces Institute and published during the war by the Linguistic Society of America and the Intensive Language Program of the American Council of Learned Societies. The following items in this series, among others, have been published in a civilian edition (all in New York, 1945-1946):

- D3.1 William S. Cornyn, Spoken Burmese; 472 pp.
- D3.2 Charles F. Hockett and Chaoying Fang, Spoken Chinese; 617 pp.
- D3.3 Jeannette Dearden and Karin Stig-Nielsen, Spoken Danish; 874 pp.
- D3.4 Leonard Bloomfield, Spoken Dutch; 554 pp.
- D3.5 William G. Moulton and Jenni Karding Moulton, Spoken German; 576 pp.
- D3.6 Henry and Renée Kahane and Ralph L. Ward, Spoken Greek; 896 pp.
- D3.7 Henry M. Hoenigswald, Spoken Hindustani; 433 pages.
- D3.8 Thomas A. Sebeok, Spoken Hungarian; 482 pages.
- D3.9 Bernard Bloch and Eleanor Harz Jordan, Spoken Japanese; 984 pages.
- D3.10 Fred Lukoff, Spoken Korean; 832 pages.
- D3.11 Isidore Dyen, Spoken Malay; 517 pages.
- D3.12 Einar Haugen, Spoken Norwegian; 668 pages.
- D3.13 I. M. Lesnín, Leonard Bloomfield, and Luba Petrova, Spoken Russian; 698 pp.
- D3.14 Carleton Hodge, Spoken Serbo-Croatian; 687 pages.
- D3.15 Mary R. Haas and Heng R. Subhanka, Spoken Thai;
- D3.16 Norman A. McQuown, Spoken Turkish; 999 pages.

E. Phonemic Sketches

El. English

- El.1 Hans Kurath, A specimen of Ohio speech, Curme volume of linguistic studies 92-101 (Language Monograph No. 7); Supplement to Lg 6:4 (1930).
- El.2 George L. Trager, The pronunciation of 'short a' in American English, American Speech 5.396-400 (1930).
- El.3 Bernard Bloch, Broad transcription of General American, Le Maître Phonétique III.13.7-10 (1935).
- El.4 George L. Trager, The transcription of English, Le Maître Phonétique III.13.10-3 (1935).
- El.5 Leonard Bloomfield, The stressed vowels of Chicago English, Lg 11.97-116 (1935).
- El.6 Morris Swadesh, The vowels of Chicago English, Lg 11.148-51 (1935).
- El.7 Kemp Malone, The phonemic structure of English monosyllables, American Speech 11.205-18 (1936).
- El.8 Kemp Malone, The phonemes of current English, Studies for William A. Read 133-65 (Baton Rouge, Louisiana, 1940).
- El.9 George L. Trager, One phonemic entity becomes two: The case of 'short a', American Speech 15.255-8 (1940).
- El.10 George L. Trager and Bernard Bloch, The syllabic phonemes of English, Lg 17.223-46 (1941).
- El.11 Norman E. Eliason, On syllable division in phonemics [criticism of El.10], Lg 18.144-7 (1942).
- El.12 Einar Haugen and W. Freeman Twaddell, Facts and phonemics [criticism of El.10], Lg 18.228-37 (1942).
- El.13 Benjamin Lee Whorf, Phonemic analysis of the English of eastern Massachusetts, SIL 2.21-40 (1943). [Comments by G.L.Trager, SIL 2.41-2.]
- El.14 Raven I. McDavid Jr., The unstressed syllabic phonemes of a Southern dialect: A problem of analysis, SIL 2.51-5 (1944).
- El.15 Rulon S. Wells, The pitch phonemes of English, Lg 21.27-39 (1945).
- El.16 Kenneth L. Pike, The intonation of American English (University of Michigan Publications: Linguistics, Vol. 1); Ann Arbor, 1945. [Reviewed by R.S.Wells, Lg 23.255-73 (1947); R.H.Stetson, IJAL 13.189-93 (1947).]
1. Procedure of investigation 1--2
 2. The relationship between auditory and instrumental analyses 3--19
 3. General characteristics of intonation 20--43
 4. Specific contours 44-106
 5. Utilization of intonation in teaching 107-133
 6. Proportionate number of occurrences of contours 134-169
 7. The setting of intonation in speech 170-172
- Footnotes and bibliography 173-200
- El.17 Stanley S. Newman, On the stress system of English, Word 2.171-87 (1946).

- E1.18 Kenneth L. Pike, On the phonemic status of English diphthongs, Lg 151-9 (1947).
- E1.19 Morris Swadesh, On the analysis of English syllabics, Lg 23.137-50 (1947).
- E1.20 Leigh Lisker, The distinction between [æ] and [e]: A problem in acoustic analysis, Lg 24.397-407 (1948).
- E1.21 George L. Trager and Henry Lee Smith Jr., An outline of English phonology (With morphological and syntactic addenda), 13 pp. (preliminary draft, limited in distribution); Washington, D. C.: Foreign Service Institute, Department of State, 1949.

E2. Other European Languages

- E2.1 Guy S. Lowman, The phonetics of Albanian, Lg 8.271-93 (1932).
- E2.2 George L. Trager, The phonemes of Russian, Lg 10.334-44 (1934).
- E2.3 George L. Trager, The phonemes of Castillian Spanish, Travaux du Cercle Linguistique de Prague 8.217-22 (1939).
- E2.4 George L. Trager, La systématique des phonèmes du polonais, Acta Linguistica 1.179-88 (1939).
- E2.5 George L. Trager, Serbo-Croatian accents and quantities, Lg 16.29-32 (1940).
- E2.6 Robert A. Hall Jr., The unit phonemes of Brazilian Portuguese, SIL 1:15.1-6 (1943). [See next.]
- E2.7 Robert A. Hall Jr., Occurrence and orthographical representation of phonemes in Brazilian Portuguese, SIL 2.6-13 (1943).
- E2.8 Thomas A. Sebeok, Notes on Hungarian vowel phonemes, Lg 19.162-4 (1943).
- E2.9 Thomas A. Sebeok, Phonemics and orthography in Finnish, Acta Linguistica 4.130-5 (1944, issued 1948).
- E2.10 Philip Scherer, Juncture in Polish, Lg 22.353-8 (1946).
- E2.11 Carleton T. Hodge, Serbo-Croatian phonemes, Lg 22.112-20 (1946).
- E2.12 William B. S. Smith, The Breton segmental phonemes, SIL 4.52-69 (1946).
- E2.13 Robert A. Hall Jr., Colloquial French phonology, SIL 4.70-90 (1946).
- E2.14 William G. Moulton, Juncture in modern standard German, Lg 23.212-26 (1947).
- E2.15 Douglas Taylor, Phonemes of Caribbean Creole, Word 3.173-9 (1947).

E3. African Languages

- E3.1 Edward Sapir, Notes on the Gweabo language of Liberia, Lg 7.30-41 (1931).
 E3.2 Joseph H. Greenberg, Some problems in Hausa phonology, Lg 17.316-23 (1941).
 E3.3 Zellig S. Harris, The phonemes of Moroccan Arabic, JAOS 62.309-18 (1942).
 E3.4 William E. Welmers and Zellig S. Harris, The phonemes of Fanti, JAOS 62.318-33 (1942).
 E3.5 Zellig S. Harris and Fred Lukoff, The phonemes of Kingwana-Swahili, JAOS 62.333-8 (1942).
 E3.6 Carleton T. Hodge and Helen E. Hause, Hausa tone, JAOS 64.51-2 (1944).

E4. Far Eastern Languages

- E4.1 Morris Swadesh, A condensed account of Mandarin phonetics, Travaux du Cercle Linguistique de Prague 8.213-4 (1939).
 E4.2 Bernard Bloch, The phonemes of the Tokyo dialect of Japanese, Le Maître Phonétique III.21.1-5 (1943).
 E4.3 Lawton M. Hartman 3d, The segmental phonemes of the Peiping dialect, Lg 20.28-42 (1944).
 E4.4 Raven I. McDavid Jr., Burmese phonemes, SIL 3.6-18 (1945).
 E4.5 Denzel Carr, Notes on Marshallese consonant phonemes, Lg 21.267-70 (1945).
 E4.6 Charles F. Hockett, Peiping phonology, JAOS 67.253-67 (1947).

E5. American Indian Languages

- E5.1 Morris Swadesh, The phonetics of Chitimacha, Lg 10.345-62 (1934).
 E5.2 C. F. Voegelin, Shawnee phonemes, Lg 11.23-37 (1935).
 E5.3 Morris Swadesh and C. F. Voegelin, A problem in phonological alternation [in Tübatulabal], Lg 15.1-10 (1939).
 E5.4 Harry Hoijer, Pitch accent in the Apachean languages, Lg 19.38-41 (1943).
 E5.5 Harry Hoijer, Navaho phonology (University of New Mexico Publications in Anthropology, Vol. 1); Albuquerque, 1945. [Reviewed by Z.S.Harris, IJAL 11.239-46 (1945).]
 E5.6 Ernest Bender and Zellig S. Harris, The phonemes of North Carolina Cherokee, IJAL 12.14-21 (1946).
 E5.7 Margaret Harden, Syllable structure of Terena, IJAL 12.60-3 (1946).
 E5.8 Kenneth L. Pike, Phonemic pitch in Maya, IJAL 12.82-8 (1946).
 E5.9 Doris Needham and Marjorie Davis, Cuicateco phonology, IJAL 12.139-46 (1946).
 E5.10 Robert F. Spencer, The phonemes of Keresan, IJAL 12.229-36 (1946).

- E5.11 Ben Elson, Sierra Popoluca syllable structure, IJAL 13.13-7 (1947).
- E5.12 Kenneth L. Pike and Eunive Victoria Pike, Immediate constituents of Mazateco syllables, IJAL 13.78-91 (1947).
- E5.13 Stanley S. Newman, Bella Coola: I. Phonology, IJAL 13.129-34 (1947).
- E5.14 Charles F. Hockett, Componential analysis of Sierra Popoluca [based on E5.11], IJAL 13.258-67 (1947).
- E5.15 Paul L. Garvin, Kutenai: I. Phonemics, IJAL 14.37-42 (1948).
- E5.16 Donald E. Sinclair and Kenneth L. Pike, The tonemes of Mesquital Otomi, IJAL 14.91-8 (1948).
- E5.17 Henry Osborn, Amahuaca phonemes, IJAL 14.188-90 (1948).
- E5.18 George M. Cowan, Mazateco whistle speech, Lg 24.280-6 (1948).
- E5.19 Raymond S. Larsen and Eunice V. Pike, Huasteco intonations and phonemes, Lg 25:3 (1949).

E6. Dead Languages

- E6.1 Edgar H. Sturtevant, The pronunciation of Greek and Latin, 2d ed. (William Dwight Whitney Linguistic Series: SP LSA); Philadelphia, 1940. [Reviewed by S. D. Atkins and H. H. Bender, Lg 17.258-62 (1941).]
- | | |
|---|---------|
| Chapter 1. The nature and value of the evidence | 21--29 |
| Chapter 2. The Greek vowels | 30--58 |
| Chapter 3. The Greek consonants | 59--93 |
| Chapter 4. The Greek accent | 94-105 |
| Chapter 5. The Latin vowels | 106-138 |
| Chapter 6. The Latin consonants | 139-176 |
| Chapter 7. The Latin accent | 177-189 |
- E6.2 Allan Harrison Fry, A phonemic interpretation of visarga [in Classical Sanskrit], Lg 17.194-200 (1941).
- E6.3 Martin Joos, Statistical patterns in Gothic phonology, Lg 18.33-8 (1942).
- E6.4 M. B. Emeneau, The nasal phonemes of Sanskrit, Lg 22.86-93 (1946).
- E6.5 Robert A. Hall Jr., Old French phonemes and orthography, Studies in Philology 43.575-85 (1946).
- E6.6 William G. Moulton, The phonemes of Gothic, Lg 24.76-86 (1948).
- E6.7 W. Freeman Twaddell, The Prehistoric Germanic short syllabics, Lg 24. 139-51 (1948). [Chiefly historical, incidentally descriptive.]

F. Morphological Sketches

- F.1 Morris Swadesh, Chitimacha verbs of derogatory or abusive connotation with parallels from European languages, Lg 9.192-201 (1933).
- F.2 C. F. Voegelin, Productive paradigms in Shawnee, Essays in honor of Alfred Louis Kroeber 391-403 (Berkeley, California, 1936).
- F.3 Benjamin Lee Whorf, The punctual and segmentative aspects of verbs in Hopi, Lg 12.127-31 (1936).
- F.4 Benjamin Lee Whorf, Some verbal categories of Hopi, Lg 14.275-86 (1938).
- F.5 Charles C. Fries, Some notes on the inflected genitive in present-day English, Lg 14.121-33 (1938).
- F.6 Morris Swadesh, Nootka internal syntax, IJAL 9.77-102 (1939).
- F.7 Edward Sapir and Morris Swadesh, Nootka texts 235-44: The primary structural elements of Nootka (William Dwight Whitney Linguistic Series: SP LSA); Baltimore, 1939.
- F.8 Leonard Bloomfield, Menomini morphophonemics, Travaux du Cercle Linguistique de Prague 8.105-15 (1939).
- F.9 Mary R. Haas, Ablaut and its function in Muskogee, Lg 16.141-50 (1940).
- F.10 George L. Trager, The Russian gender categories, Lg 16.300-7 (1940).
- F.11 Charles F. Hockett, English verb inflection, SIL 1:2.1-8 (1942).
- F.12 Mary R. Haas, Types of reduplication in Thai (With some comparisons and contrasts taken from English), SIL 1:4.1-6 (1942).
- F.13 Mary R. Haas, Men's and women's speech in Koasati, Lg 20.142-9 (1944).
- F.14 Robert A. Hall Jr., Italian inflection, Lg 20.11-21 (1944).
- F.15 George L. Trager, The verb morphology of spoken French, Lg 20.131-41 (1944).
- F.16 Leonard Bloomfield, On describing inflection [of verbs in spoken French], Monatshefte für deutschen Unterricht 37:4/5.8-13 (1945).
- F.17 Paul L. Garvin, Pure-relational suffixes and postpositions in Hungarian, Lg 21.250-5 (1945).
- F.18 Robert A. Hall Jr., Spanish inflection, SIL 3.24-36 (1945).
- F.19 Robert A. Hall Jr., Brazilian Portuguese inflection, Hispanic Review 13.231-42 (1945).
- F.20 Robert A. Hall Jr., Colloquial French substantive inflection, French Review 19.42-51 (1946).
- F.21 Mary R. Haas, Techniques of intensifying in Thai, Word 2.127-30 (1946).
- F.22 Bernard Bloch, Studies in colloquial Japanese: I. Inflection, JAOS 66. 97-109 (1946).
- F.23 Bernard Bloch, Studies in colloquial Japanese: III. Derivation of inflected words, JAOS 66.304-15 (1946).

- F.24 Robert A. Hall Jr., Classical Latin noun inflection, *Classical Philology* 41.84-90 (1946).
- F.25 Fred W. Householder Jr., A descriptive analysis of Latin declension, *Word* 3.48-58 (1947).
- F.26 Robert A. Hall Jr., Colloquial French verb inflection, *Romance Philology* 1.39-50 (1947).
- F.27 A. M. Halpern, Yuma: IV. Verb themes, *IJAL* 13.18-30; V. Conjugation of the verb theme, *IJAL* 13.92-107 (1947).
- F.28 Bernard Bloch, English verb inflection, *Lg* 23.399-418 (1947).
- F.29 C. F. Voegelin, A problem in morpheme alternants and their distribution [in Oto, a Siouan language], *Lg* 23.245-54 (1947).
- F.30 William S. Cornyn, On the classification of Russian verbs, *Lg* 24.64-75 (1948).
- F.31 Zellig S. Harris, Componential analysis of a Hebrew paradigm, *Lg* 24.87-91 (1948).
- F.32 Stanley S. Newman, English suffixation, *Word* 4.24-36 (1948).
- F.33 Morris Swadesh, A structural trend in Nootka, *Word* 4.106-19 (1948).
- F.34 Morris Swadesh, South Greenlandic paradigms, *IJAL* 14.29-36 (1948).
- F.35 Paul L. Garvin, Kutenai: II. Morpheme variations, *IJAL* 14.87-90; III. Morpheme distributions, *IJAL* 14.171-87 (1948).
- F.36 Richard S. Pittman, Nahuatl honorifics, *IJAL* 14.236-9 (1948).
- F.37 Mary R. Haas, Classificatory verbs in Muskogee, *IJAL* 14.244-6 (1948).
- F.38 Harry Hoijer, The Apachean verb: I. Verb structure and pronominal prefixes, *IJAL* 11.193-203 (1945); II. The prefixes for mode and tense, *IJAL* 12.1-13 (1946); III. The classifiers, *IJAL* 12.51-9 (1946); IV. Major form classes, *IJAL* 14.247-59 (1948); V. The theme and prefix complex, *IJAL* 15.12-22 (1949).

G. Syntactic Sketches

- G.1 Charles F. Hockett, Potawatomi syntax, *Lg* 15.235-48 (1939).
- G.2 Charles C. Fries, On the development of the structural use of word-order in Modern English, *Lg* 16.199-208 (1940).
- G.3 Leonard Bloomfield, Outline of Ilocano syntax, *Lg* 18.193-200 (1942).
- G.4 Mary R. Haas, The use of numeral classifiers in Thai, *Lg* 18.201-5 (1942).
- G.5 Thomas A. Sebeok, The equational sentence in Hungarian, *Lg* 19.320-7 (1943).
- G.6 Bernard Bloch, Studies in colloquial Japanese: II. Syntax, *Lg* 22.200-48 (1946).
- G.7 Bernard Bloch, Syntactic formulas for Japanese, *SIL* 5.1-12 (1947).
[Symbolic restatement of G.6.]

READINGS IN LINGUISTIC ANALYSIS: SUPPLEMENT TO MARCH 1950

- A.2 Leonard Bloomfield, A set of postulates for the science of language, reprinted in *IJAL* 15.195-202 (1949).
- A.5b Edward Sapir, Language, *Encyclopaedia of the Social Sciences* 9.155-69 (New York, 1933); reprinted in *Selected Writings of Edward Sapir* (ed. by David G. Mandelbaum) 7-32 (Berkeley and Los Angeles, 1949).
- A.20 M. B. Emeneau, Language and non-linguistic patterns, *Lg* 26:2 (1950).
- B.2 Edward Sapir, The psychological reality of phonemes, reprinted (in English) in *Selected Writings of Edward Sapir* 46-60 [cf. A.5b].
- B.31 Charles F. Hockett, Two fundamental problems in phonemics [criticism of B.22], *SIL* 7.29-31 (1949).
- C.10 Eugene A. Nida *Morphology: The descriptive analysis of words*; 2d and completely new edition, based on actual-language material (University of Michigan Publications: Linguistics, Vol. 2); Ann Arbor, 1949.
- | | |
|--|---------|
| Chap. 1. Introduction to morphology | 1--5 |
| Chap. 2. The identification of morphemes | 6--61 |
| Chap. 3. Types of morphemes | 62--77 |
| Chap. 4. The distribution of morphemes | 78-106 |
| Chap. 5. Structural classes | 107-150 |
| Chap. 6. The meaning of morphemes and sequences of morphemes ... | 151-174 |
| Chap. 7. Field procedures | 175-191 |
| Chap. 8. Analytical procedures | 192-221 |
| Chap. 9. The descriptive statement of the morphology | 222-282 |
| Appendix, Bibliography, and Index | 283-342 |
- D.20 Edith E. Crowell, A preliminary report on Kiowa structure, *IJAL* 15.163-7 (49).
- D.11 William E. Welmers, Notes on two languages of the Senúfo group, I. Senaci *Lg* 26.126-46 (1950); II. Sup'ide, *Lg* 26:3 (1950).
- E.16 R. Jakobson and J. Lotz, Notes on the French phonemic system, *Word* 5.151-8 (1949).
- E.17 Bernard Bloch, Studies in Colloquial Japanese IV. Phonemics, *Lg* 26.86-125 (1950).
- E.20 Frances Leon and Morris Swadesh, Two views of Otomi prosody, *IJAL* 15.100-5 (1949).
- E.21 Harry Hoijer and Edward P. Dozier, The phonemes of Tewa, Santa Clara dialect, *IJAL* 15.139-44 (1949).
- E.22 Venda Riggs, Alternate phonemic analyses of Comanche, *IJAL* 15.229-31 (1949).
- F.1a Edward Sapir, Male and female forms of speech in Yana [a language of northern California], *Donum Natalicum Schrijnen* 79-85 (Nijmegen-Utrecht, 1929); reprinted in *Selected Writings of Edward Sapir* 206-12 [cf. A.5b].
- F.39 Roman Jakobson, Russian conjugation, *Word* 4.155-67 (1948 [issued 1949]).
- F.40 Henry Osborn and William A. Smalley, Formulae for Comanche stem and word formation, *IJAL* 15.93-9 (1949).
- F.41 Gladys Reichard, The character of the Navaho verb stem, *Word* 5.55-76 (1949).
- F.42 Charles F. Hockett, Peiping morphophonemics, *Lg* 26.63-85 (1950).